



今度の海外では、どうしてかわからないのだけれども、通言がうまくつながった。回りの農家に電気なんか来てないだろうと思えるし、田畑の周囲に穴を掘っている現場でも、どこまでもどこまでも続く街路樹の道で大揺れに揺れて走っていても、パソコンに携帯をつなぐと、文字静けさで済ませられるも、いつでも、自由にメールが出来た。何年か前はダッカから出たら私の携帯ではつながったりつながらなかったりとまったくあやふやなものだったのだが、環境整備が急速に進んだものではなかな。

全家庭に電話線を引くのは大変な事業だけれども、携帯用の電波網を整備するのはずっと楽なのだろう。そして、一番の要因は、需要があるからだ。どんな地方に行っても、腰巻一つで働いていて日当160円の人でも、日本円で数千円の携帯をけっこう持っている。この間も早朝、広大な公園の中の池を掘っている現場周辺を散歩していたら、土手で休んでいた仕事前の作業員に、めずらしい外人がいると、携帯のカメラでこっちが写真を取られてしまった。今までと逆の立場だ。

ニンゲンの好奇心にとめられる方法などないのだ。「この村ではこの辺の林の中がトイレ代わりになっています。」というところでも、トイレを作るより、携帯のほうが先なのだ。傍から考えると、「そんなことより先にやることもあるだろー。」と言いたくもするが、こんな好奇心の自由な選択がたぶん、結果になるんじゃないかと思う。衛生問題より、とりあえずの人間問題のほうが先なのだ。人と人がつながるといことは、大切というより、ニンゲンの存在理由の基本的で大きな部分なのだと思う。

そんなわけで、私も、あんな僻地で、誰とでも瞬時につながることが出来るという魔力に負けて、集会の木の下でパソコンを開き、つい、ふつふつと色々な人に語りかけてしまった。疲れ果てて揺られて帰る車の中で、刻々とオレンジに暮れてゆく日暮れ的情景を遠く外国の人に語りかけてみたくなってしまった。

そして、そんなところに、日本や、カンボジアや、中東の友人たちからの言葉がそのまま飛び込んでくる。日本から封書を出して、半年もかけて地球の裏側へ届けたのはついこの前のように最近なのだが、桁量の変化が、あたりまえのように始まり、これから恐ろしいくらい私たちの心に急激な変化が始まってくるのだろう。しかし、わたしたちはそれに耐えられるのか？よく考えてみると、日本の農家の生活なんて、縄文時代から、江戸の終わりまで、大して変化がなかったくらいなのに、あまりにも変化のスピードが速い気がするな。

このあけはじめたブログのアドレス <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/> まだやっています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com